

埼玉

SAITAMA



さいたま総局
〒330-0063
さいたま市浦和区
高砂1-2-1
電話 048-829-2311(代)
FAX 048-830-1091
saitama@sankei.co.jp

熊谷市に拠点を置く県ラグビーフットボール協会は昭和23年に設立しました。協会とはいえ、傘下は高校チームだけで、全国高校ラグビー選手権に向けた県の大会では年ごとに優勝チームが異なりました。しかし、26年度に熊谷商工が優勝し、その後は商業高校と工業高校に分離するまで監督だった森喜雄率いる熊谷商工は、県内高校ラグビーの

ラグビー 史伝

迫るW杯 彩の国

歴史編②

「王者」として君臨していました。

ただ、県内で強くても関東地区予選の壁は厚く、県代表の全国大会出場は夢のまた夢でした。その苦難を知る森は当時を県ラグビー協会誌でこう述懐しています。「関東地区ではレベルが低く後進県でした。県体育協会の種々の会合でも末席をけがしているだけで(中略)小さくなって

王者・熊谷商工初の全国大会



熊谷商のラグビー部員ら(昭和43年度の卒業アルバムより)

るばかりでした。本当に忍耐の場でもありました」

それでも、森のラグビーへの情熱が通じ、悲願が達成します。熊谷商工が浦和を下し、地区予選も突破して第38回全国大会(33年度)に初めて出場しました。初戦の相手

は名門の天理(奈良県)。終始、緊張していた森は当時の様子をこう振り返っています。

「私自身が興奮していた。平静を装うが、身体は小刻みに震え、選手たちに話す声はうわずってしまい(中略)何を話しているのかわかりませ

んでした。この時をおいて後にも先にも、こんなに上がってしまっただけはない」。試合は同点引き分け(抽選勝ち)で2回戦に進みました。

最古参の浦和も負けていません。第39回全国大会(34年度)に念願の初出場を果たしました。当時の県内高校ラグビーは県北地域の高校が強く、浦和は県内の予選で涙をのんでいましたが、宿敵の熊谷商工を倒し、北関東予選を突破して創部以来、初の全国大会出場を果たしました。

第42回全国大会(37年度)から大会会場が花園ラグビーに移りました。高校ラグビーの聖地「花園伝説」の始まりです。続く第43回全国大会(38年度)に熊谷商工は、2年連続3回目の出場を果たし、県勢として熊本工(熊本県)を17対0で破り、花園の記念すべき初勝利を挙げています。

翌年度の全国大会にも出場した熊谷商工は41年4月、熊谷商と熊谷工の両校に分離し、県内で圧倒的な力を誇ってきた熊谷商工の歴史が幕を閉じました。そのノーサイドの精神は熊谷工が引き継ぐこ

とになります。

実は、熊谷商工を率いた森は商工分離を見越し、分離前の40年度に入学した選手を「国体候補選手」として熊谷商工の商業科に集めていました。森自身、商工分離後は熊谷商に勤務する予定でいたからでした。

ところが、森の目算が狂います。熊谷商工時代の野球部が甲子園に出場するようになると、関係者の意見は「分離後、熊谷商は野球中心」「熊谷工はラグビー中心」という流れに傾いていったとされています。

分離後、熊谷商で勤務する予定だった森はラグビー中心とされた熊谷工に着任。皮肉にも自ら集めた有望選手が所属する熊谷商と戦うことになってしまったのでした。その熊谷商は森が集めた選手たちの活躍で県予選、そして北関東代表決定戦を突破し、第47回全国大会(42年度)に初出場します。初戦で敗退しましたが、熊谷商として最初で最後の「花園」となりました。

敬称略
(松本博之・ぶぎん地域経済研究所取締役調査事業部長)